

山陰近畿自動車道早期実現促進大会

【開催日時】令和4年10月16日（日） 13:30～15:00

【場 所】京都府丹後文化会館 ホール（京丹後市峰山町）

【主 催】丹後・地域高規格道路推進協議会（舞鶴市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）

【後 援】京都府、京都府高速道路網整備促進協議会

【内 容】1 開会宣言 2 主催者挨拶 3 来賓祝辞 4 来賓紹介 5 祝電披露
6 基調講演 7 意見発表 8 大会決議 9 要望書手交 10 閉会挨拶

【参加者数】約400人

大会決議（要旨）

今年度の促進大会は下記の決議を大会参加者が満場一致で承認し、早期全線整備の加速化を国府の関係者へ強く要望しました。

- 全線を令和10年代に完成するよう具体的な整備の年次計画を立てて全線整備の時期的な目途を明らかにするとともに、その早期全線整備を図ること
- 大宮峰山 IC から網野 IC までを令和5年度には事業化すること
- 府県境までの区間について、早期にルート決定を行うこと
- ミッシングリンクの早期解消を図るため、地域の意見も踏まえ、管理費等の利用者負担も排除せず安定的な財源確保を図ること

【開会宣言】



山陰近畿自動車道は、北近畿の振興・発展・未来のために欠くべからざるもの。1日も早い滞りなく達成を心より祈念し、大会の開会を宣言します。

【主催者挨拶】



山陰近畿自動車道の全線整備の時期的な目途の欠如が、まちづくりの展望を描く上で決定的な隘路となっている。1日も早い全線整備を、地域を上げて強く願います。

基調講演 「道路行政をとりまく最近の情勢について」

国土交通省近畿地方整備局 局長 渡辺 学 様

今日は直接皆さまの熱意を肌で受け止めさせていただいた。
国交省としてもしっかりと山陰近畿自動車道の整備に頑張っていく。



【講演の内容】「道路行政をとりまく最近の情勢」について

以下の3つの視点に基づき講演

- ① 予算関係
- ② 道路関係主要施策
- ③ 山陰近畿自動車道に期待されるストック効果
 - ・地域の観光活性化を支援
 - ・企業進出による地域活性化を支援
 - ・第3次救急医療機関へのアクセス向上
 - ・地域特産品の販路拡大と観光消費の増加
 - ・災害に強い基盤整備

意見発表 「丹後地域の観光振興・企業の活性化」には早期全線整備が必要！



株式会社エーゲル
代表取締役 伊豆田 千加 様

たくさんの方に丹後半島のすばらしさを感じてもらい、愛のあるよそ者に、丹後愛を語ってもらうことがとても大切。それが持続可能な地域づくりにつながり、観光や移住で賑わう丹後地域となる。網野から兵庫県まで完成すれば、中国地方からも気軽にこ越しただけなので、一刻も早い全線開通をお願いしたい。



尾崎鐵工株式会社
代表取締役 尾崎 至弘 様

丹後機械金属業界の受注先は全国規模で特に関西圏内が多く、高速道路の利用率は非常に高い。この山陰近畿道が全面整備されれば、今まで取引のなかった地域や企業との連携が生まれ、企業の活性化、山陰地域全体の発展にも繋がりますので、一日でも早い全面整備の実現を心から強くお願いをしたい。

来賓祝辞 「山陰近畿自動車道」早期実現のため財源・予算確保に全力！



衆議院議員
本田 太郎 様

山陰近畿自動車道は我々北部の人間にとっては命の道。一刻も早く繋がるよう、国から予算を獲得してくることが私の使命。この道の延伸、ミッシングリンク解消に向け、カーブを頑張っていきます。



参議院議員
西田 昌司 様

日本海側の過疎というのは戦後に作られてしまったものであり、この道路の早期実現を阻む一番大きな問題は、結局は財源。この問題の事実関係を広め、政治の力でやり直していくことが我々の使命。



参議院議員
吉井 章 様

道路網の整備は北部地域の振興・発展に欠かすことができない重要な要素。国がしっかりと長期の整備計画を立て、民間の皆さんが前へ進んでいくことが大切。予算確保に向け、全力を尽くしていく。



京都府副知事
山下 晃正 様

今まで財政や計画の壁にぶち当たっていたが、今回の決議案に込められた地元の熱い想いを受け、何とかして資金を獲得し、全力で道筋を立て、夢をもって地域づくりに取り組める環境を作りたい。



京都府議会議長 菅谷寛志様代理
副議長 村井 弘 様

山陰近畿自動車道は地域振興に大きく寄与する道路。道路の整備など人々の生活になくてはならない交通基盤等の機能強化など、地域の発展のため全力で取り組んでいく。



会場は約400人の関係者の出席により、早期全線整備にかける熱気が包まれた。

【要望書手交】



「山陰近畿自動車道」の早期実現を願い協議会会長副会長が国会議員・国・府・府会議員へ要望書を手交

【大会決議】



副会長（宮津市長）
城崎 雅文

- 具体的な整備の年次計画を立て、府県境までの全線を令和10年代の完成、網野 IC までを令和5年度には事業化すること
- 地域の意見を踏まえ、管理費等の利用者負担を排除せず、安定的な財源確保を図ること
- 「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に必要な予算を例年以上の規模で確保し、加速化対策後も通常予算と別枠で継続的に確保すること

【閉会挨拶】



副会長（与謝野町長）
山添 藤真

本大会の決議は、私たちの強い想いと覚悟が込められたものとなっております。今後、関係各位のご協力をいただき、山陰近畿自動車道の全線開通に向けて尽力してまいります。改めて皆様方の心からのご協力をよろしくお願い申し上げます。

決 議

山陰近畿自動車道は、京都縦貫自動車道、北近畿豊岡自動車道、鳥取自動車道、山陰自動車道と連結し、日本海国土軸を形成する道路であり、令和四年四月には、山陰近畿自動車道全線が貨物積載車両の効率的な運行が確保できる重要物流道路に指定されており、地方創生及び国土強靱化の実現に欠かせない重要な幹線道路である。

丹後地域においては、京都縦貫自動車道の全線開通、山陰近畿自動車道の延伸により、観光客の増加や新たな企業進出など高速道路の整備による多大なストック効果が表れている。

こうした効果を更に高め、当地域の経済・産業の活性化のためには、ミッシングリンクである山陰近畿自動車道の早期全線整備が不可欠である。にもかかわらず、現状、早期全線整備の时期的な用途が示されておらず、まちづくりの長期展望を十分に得ていく上でも隘路となっている。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により東京一極集中の是正が求められおり、ポストコロナを念頭に交流・関係人口の拡大による地方への人・モノ・仕事の流れを作る地方創生を加速前進させていく必要性が高まっているため、次の事項を強く要望する。

なお、早期全線開通の要望と併せて、今後の交通量の推移を踏まえた山陰近畿自動車道の四車線化、大宮地域から網野方面への出入口の新設についても強くお願いする。

一、山陰近畿自動車道の

- ・ミッシングリンクとなっている大宮峰山インターチェンジから府県境までの全線を令和十年代に完成するよう具体的な整備の年次計画を立てて全線整備の时期的な用途を明らかにするとともに、その早期全線整備を図ること

- ・大宮峰山インターチェンジから網野インターチェンジまでを令和五年度には事業化すること

- ・府県境までの区間について、ルート決定に必要な予算措置を行うとともに、地元希望ルート帯に配慮し、早期にルート決定を行うこと

- ・大宮峰山道路及びアクセス道路の事業を早期かつ着実に推進するため、必要な予算措置を行うこと

一、

高規格道路網のミッシングリンクの早期解消を図るため、また、そのサービス水準を持続できるよう、地域の意見も踏まえ、管理費等の利用者負担も排除せず安定的な財源確保を図ること

一、

「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」に必要な予算・財源を例年以上の規模で確保し計画的に事業を推進するとともに、五か年加速化対策後も予算・財源を通常予算とは別枠で確保し継続的に取り組むこと

一、

直轄権限代行や頻発する大規模自然災害等に対応するための地方整備局等の体制の充実・強化をすること

以上、大会決議とする。

令和四年十月十六日

山陰近畿自動車道早期実現促進大会